

音更町まちづくり町民アンケート 結果報告書

平成24年8月

音更町

もくじ

1	調査の概要.....	1
2	回答者について.....	2
	(ア) 性別.....	2
	(イ) 年齢.....	3
	(ウ) 出生地.....	4
	(エ) 職業.....	4
	(オ) 居住行政区(町内会)名.....	4
	(カ) 勤務地または通学地.....	5
	(キ) 音更町での居住年数.....	5
3	設問別調査結果.....	6
	【問1】音更町での暮らしについて.....	6
	【問2】音更町の住み良さ.....	12
	【問3】音更町への定住志向.....	15
	【問4】町外に移りたいと思う主な理由.....	17
	【問5】行政運営(まちづくり)や町民参加について.....	19
	【問6】「広報おとふけ」と町のホームページを読む程度.....	26
	【問7】「広報おとふけ」とホームページの改善点.....	30
	【問8】まちづくりへのアイデアや提案.....	32
4	アンケート票.....	42

1 調査の概要

○調査の目的

この調査は、住民のみなさまを対象に、暮らしの中で感じる意識や意向、まちづくりへの評価、意見や提案などを把握し、第5期音更町総合計画を推進する上での資料とするため実施したものです。

○調査の実施方法などについては、次のとおりです。

実施時期：平成24年6月

実施地域：音更町全域

対象者(数)：音更町に住む18歳以上の住民から無作為に抽出した1,000名

調査方法：郵送にて配布・回収（回答は無記名）

○回収状況

配布数：1,000票

回収数：441票（回収率44.1%）

○集計・表記方法

- ・比較や順位付けは回答率（一部では加重平均値）で行っており、“高い”“低い”という表現は、回答率の高低を意味しています。
- ・集計は各属性で行っていますが、本報告書では、「全体」のほか、特徴のある属性のみ、コメントしています。
- ・集計結果は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを百分率(%)で表示しています。そのため、選択肢から1つだけ選び回答する設問では、構成比の和が100.0%にならないことがあります。
- ・属性別の集計結果については、属性の無回答者を除いて表示しているため、総数と異なる場合があります。
- ・本文やグラフ中の選択肢は、調査票の言葉を短縮しているものがあります。
- ・自由記述回答については、回答者の実際の記述事項を整理・要約して掲載しています。同じ内容のものについてはまとめ、回答数を（ ）に示しています。

○調査の実施機関

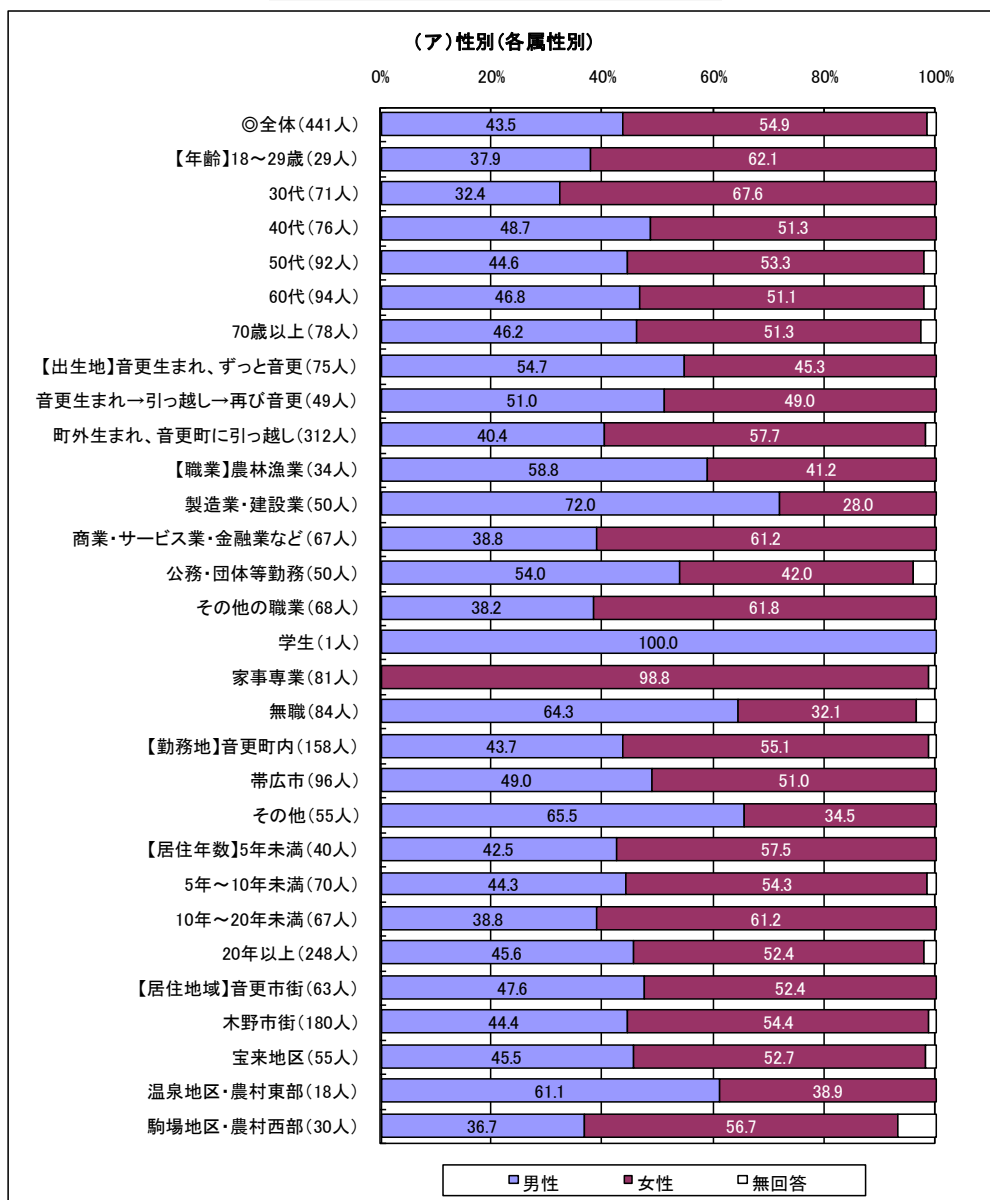
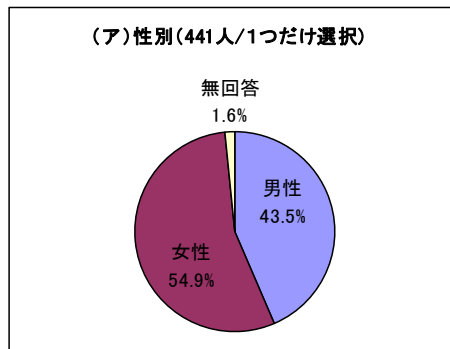
音更町企画財政部企画課

2 回答者について

はじめに、回答される方についておたずねします。次の各項目について、それぞれあてはまるものを1つだけ選んで、番号に○印をつけてください。(居住地については記述)

(ア) 性別

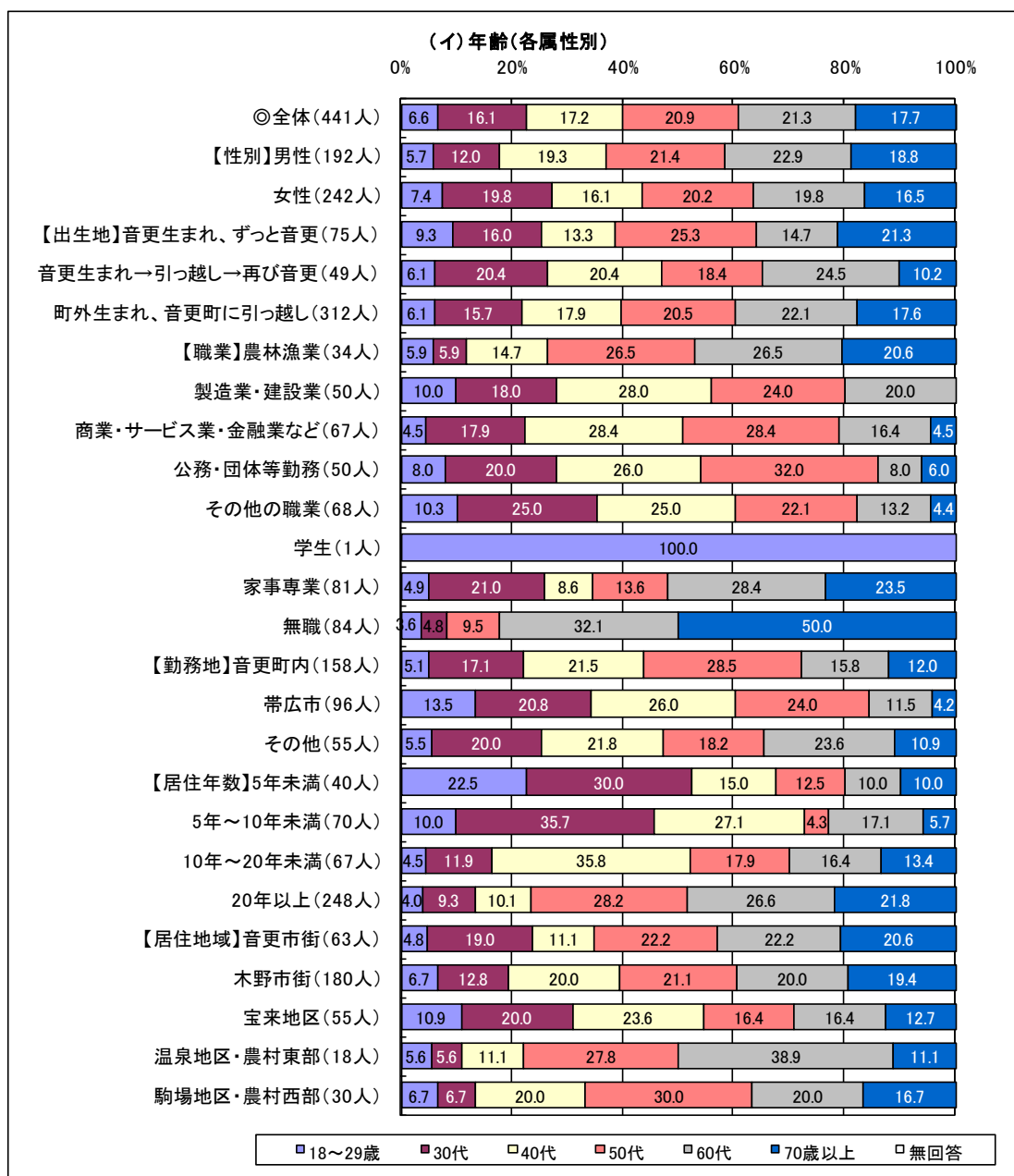
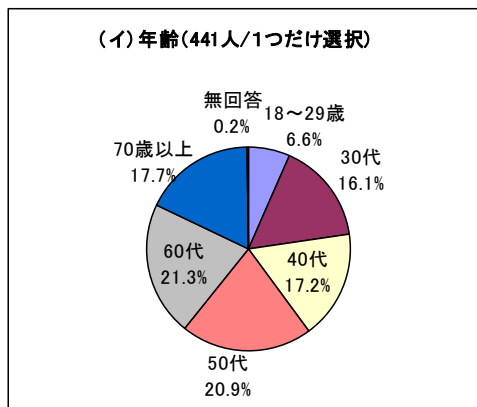
性別で比較すると、「女性」が54.9%、「男性」が43.5%で、女性が多めです。年齢ごとの性別をみると、30代で特に「女性」の割合が高くなっています。



(イ) 年齢

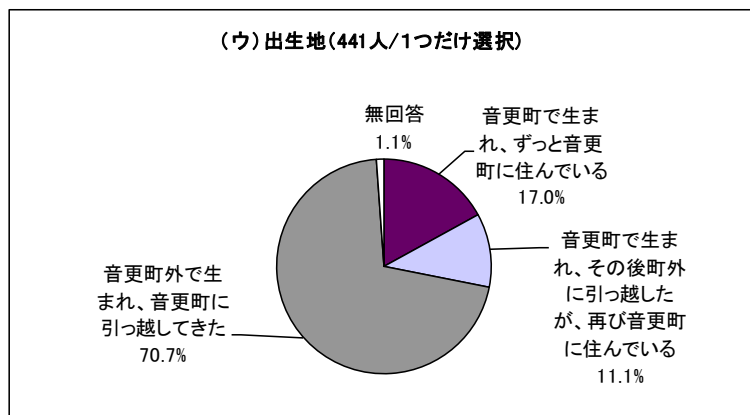
「60代」(21.3%)が最も多く、「50代」(20.9%)で続きます。最も少ないのは「18～29歳」(6.6%)です。

性別ごとの年齢内訳をみると、男性は60代、女性は50代が最多です。



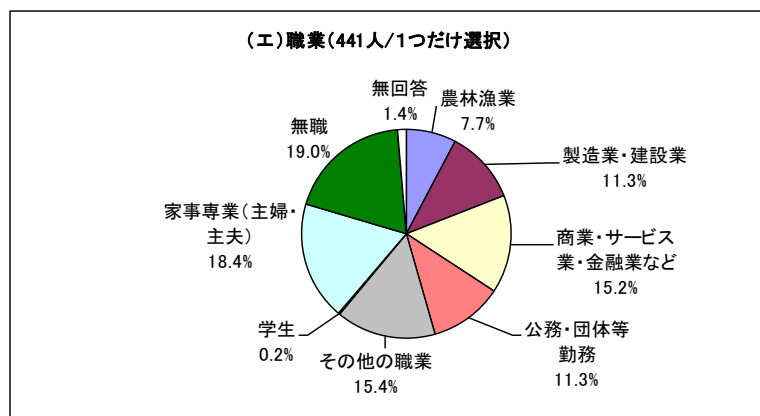
(ウ) 出生地

「音更町外で生まれ、音更町に引っ越してきた」(70.7%)が最も多く、「音更町で生まれ、ずっと音更町に住んでいる」(17.0%)、「音更町で生まれ、その後町外に引っ越したが、再び音更町に住んでいる」(11.1%)と続きます。



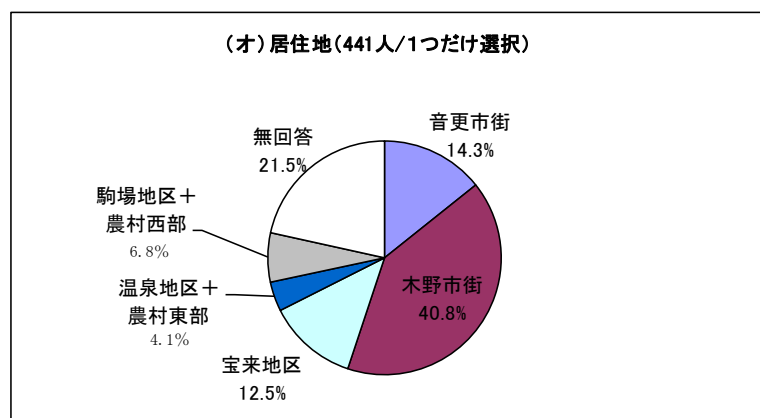
(エ) 職業

「無職」(19.0%)、「家事専業(主婦・主夫)」(18.4%)の割合が多く、「その他の職業」(15.4%)「商業・サービス業・金融業など」(15.2%)が続きます。



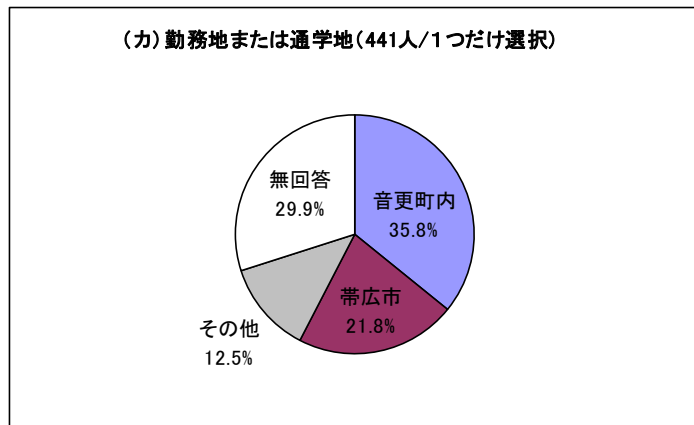
(オ) 居住行政区(町内会)名

「木野市街」(40.8%)が最も多く、「音更市街」(14.3%)が続きます。また、無回答が約2割を占めます。



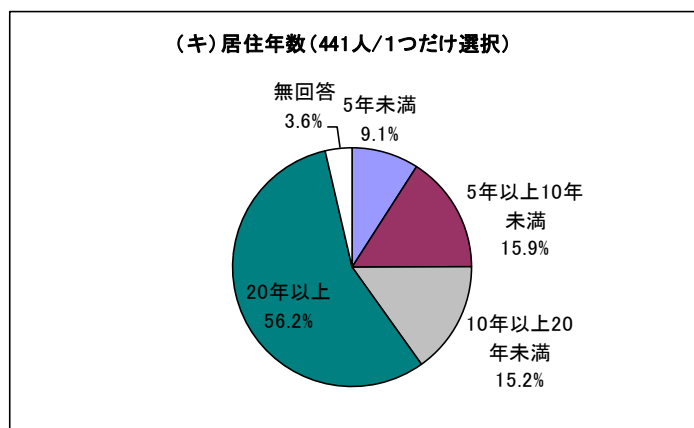
(カ) 勤務地または通学地

「音更町内」(35.8%) が最も多く、「帯広市」(21.8%) が続きます。



(キ) 音更町での居住年数

「20年以上」(56.2%) が最も多く、「5年以上10年未満」(15.9%) が続きます。「5年未満」と「5年から10年未満」の合計で25%を占めます。



3 設問別調査結果

【問1】音更町での暮らしについて

【問1】音更町での暮らしについて、各分野の【現在の「満足度」】と、【今後の「重要度」】をおたずねします。下の「①満足度」と「②重要度」の各選択肢（A～E）から、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで、○印をつけてください。

加重平均値*を算出すると、「満足度」で最も値が高かったのは「34. 日常の買い物環境」（0.61）で、最も低かったのは「40. 働く場の確保」（-0.35）です。

「重要度」で最も値が高かったのは「1. 子育ての環境や支援」（1.30）で、最も低かったのは「22. 文化財や史跡の伝承保存」（0.35）です。（◎は最大値、▼は最小値を示します。）

	満足度の加重平均 (H20)①	満足度の加重平均 (H24)②	前回との比較 ②-①	重要度の加重平均 (H20)③	重要度の加重平均 (H24)④	前回との比較 ④-③
1.子育ての環境や支援	0.16	0.28	0.12	1.29	◎1.30	0.01
2.健康づくりや病気の予防	0.25	0.39	0.14	1.14	1.18	0.04
3.病院・診療所などの医療環境	0.46	0.49	0.03	◎1.34	1.28	-0.06
4.高齢者の自立支援	-0.08	0.05	0.13	1.15	1.07	-0.08
5.障がい者(児)の生活支援	-0.05	0.15	0.20	1.11	1.08	-0.03
6.男女等しく参加できる環境づくり	0.02	0.18	0.16	0.45	0.55	0.10
7.町民ボランティア活動の育成・支援	0.00	0.08	0.08	0.49	0.48	-0.01
8.消費生活の情報提供や相談	-0.11	-0.01	0.10	0.55	0.49	-0.06
9.町内会活動などのコミュニティ活動	0.11	0.21	0.10	0.37	0.43	0.06
10.交通安全への取り組み	0.10	0.16	0.06	0.82	0.88	0.06
11.地域での防犯対策	-0.02	0.07	0.09	1.02	1.09	0.07
12.消防・救急体制	0.28	0.39	0.11	1.17	1.20	0.03
13.自然災害に対する防災体制	-0.04	0.01	0.05	1.10	1.17	0.07
14.自然環境の保全	0.16	0.28	0.12	0.91	0.92	0.01
15.騒音・振動・悪臭の公害防止	0.13	0.19	0.06	0.91	0.94	0.03
16.ごみの収集・リサイクル	0.48	0.57	0.09	1.16	1.15	-0.01
17.生涯学習の情報や機会の提供	0.16	0.24	0.08	0.48	0.51	0.03
18.小・中学校の教育環境	0.11	0.27	0.16	1.04	1.07	0.03
19.障がいのある児童の教育環境	0.07	0.18	0.11	0.90	0.88	-0.02
20.芸術文化活動の促進	0.14	0.18	0.04	0.32	0.39	0.07
21.芸術文化施設の充実	0.19	0.21	0.02	0.29	0.36	0.07
22.文化財や史跡の伝承保存	0.04	0.11	0.07	0.30	▼0.35	0.05
23.スポーツ活動の推進	0.15	0.27	0.12	0.41	0.49	0.07
24.スポーツ施設の充実	0.26	0.33	0.07	0.47	0.63	0.16
25.青少年の健全育成	0.03	0.14	0.11	0.72	0.75	0.03
26.国際交流・都市間交流	0.02	0.04	0.02	▼0.27	0.39	0.12
27.公園や緑地の整備・管理	—	0.34	—	—	0.86	—
28.公営住宅環境の整備	0.08	0.15	0.07	0.49	0.54	0.05
29.上下水道の整備	0.35	0.45	0.10	0.88	0.93	0.05
30.道路や歩道の除排雪	-0.12	0.02	0.14	1.24	1.27	0.03
31.道路の整備・管理	—	-0.05	—	—	1.07	—
32.バスの利用のしやすさ	-0.22	-0.06	0.16	0.70	0.74	0.04
33.まちの景観	—	0.19	—	—	0.75	—
34.日常の買い物環境	◎0.54	◎0.61	0.07	0.93	0.99	0.06
35.中心市街地のにぎわいづくり	-0.23	-0.11	0.12	0.66	0.73	0.07
36.農業の振興	0.13	0.37	0.24	0.95	0.97	0.02
37.地産地消・食育の取組	—	0.32	—	—	1.00	—
38.企業誘致や企業活動の支援	-0.18	0.05	0.23	0.83	0.85	0.02
39.観光地としての魅力づくり	-0.34	-0.13	0.21	0.92	1.07	0.15
40.働く場の確保	▼-0.55	▼-0.35	0.20	1.30	1.25	-0.05
41.広報誌やホームページの情報提供	0.27	0.36	0.09	0.67	0.73	0.06
42.協働によるまちづくり体制	-0.01	0.09	0.10	0.68	0.71	0.03
43.窓口対応やサービスの提供	0.14	0.30	0.16	0.80	0.90	0.10

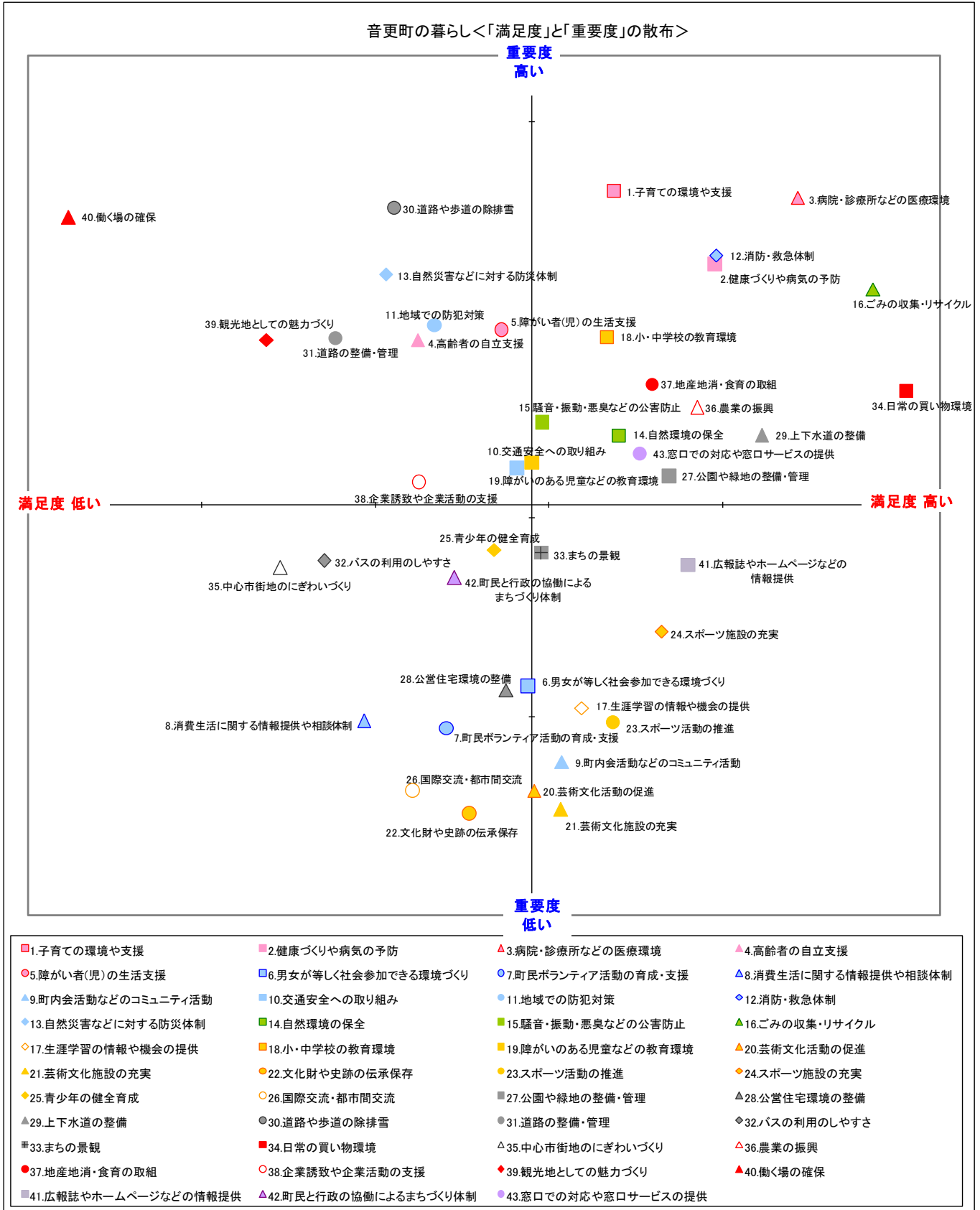
※回答者数によって平均値を算出したものを「加重平均」といいます。

満足度の算出：（満足×2＋やや満足×1＋やや不満×-1＋不満×-2）÷回答者数

重要度の算出：（重要×2＋やや重要×1＋あまり重要でない×-1＋重要でない×-2）÷回答者数

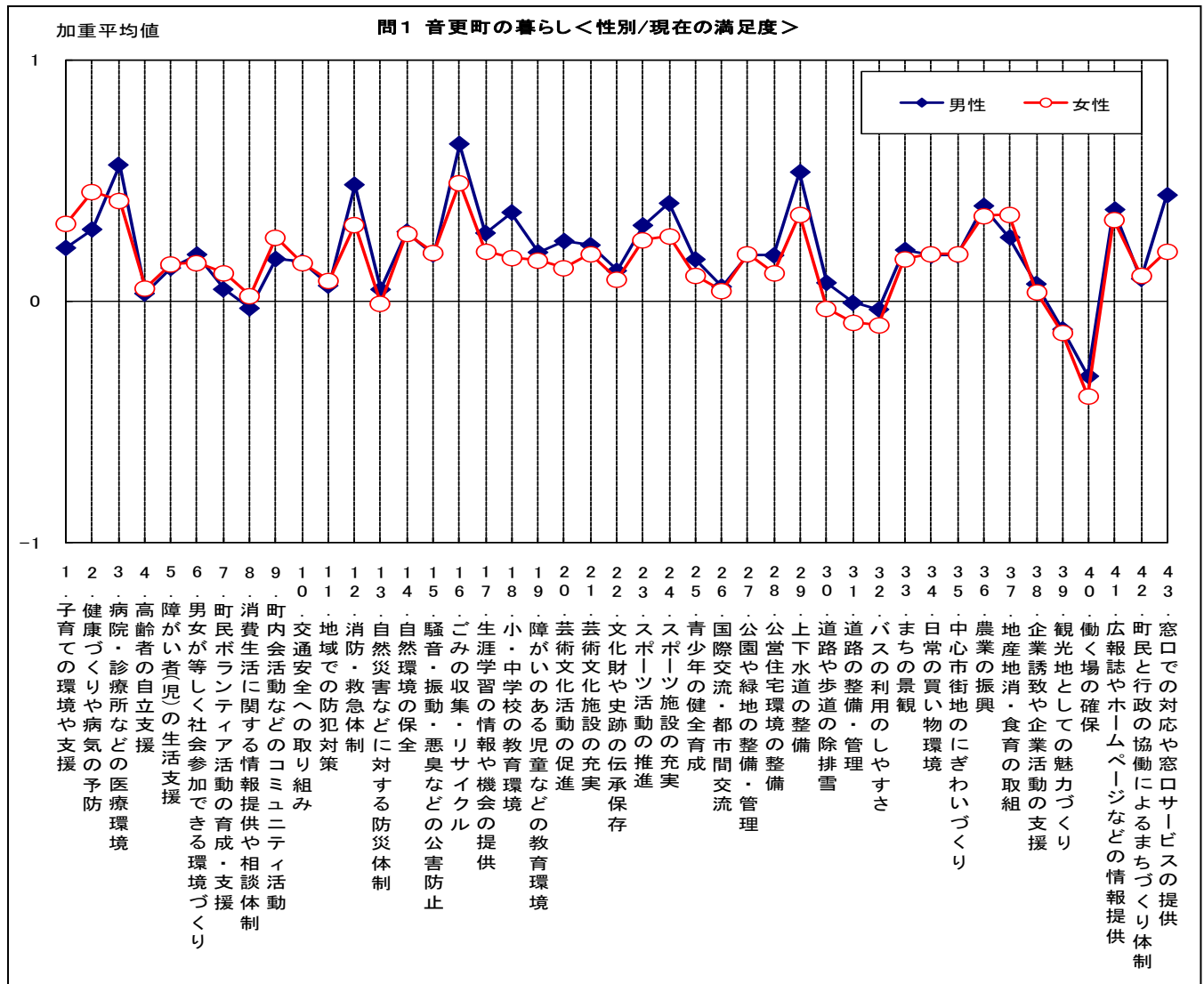
数値の範囲は-2～+2の間で、-2に近いほど評価は低く、+2に近いほど評価は高い、とみます。

44 項目の満足度、重要度の加重平均値の分布を相対的に比較してみると、
 “満足度が低く重要度が高い” のは「40. 働く場の確保」、
 “満足度も重要度もともに高い” のは「3. 病院・診療所などの医療環境」や「16. ごみの収集・リサイクル」であることがわかります。



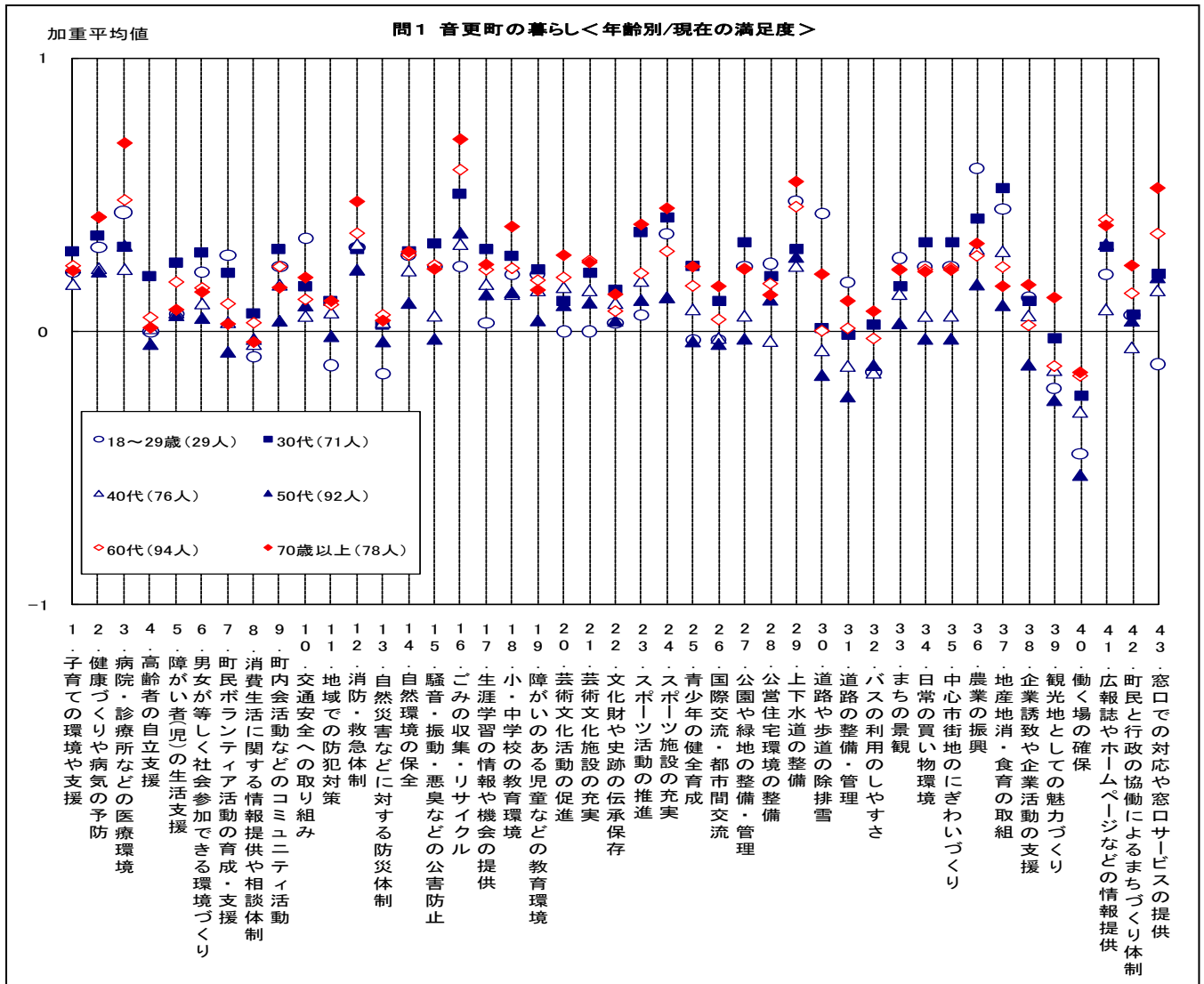
<①満足度について/性別>

性別にみると、「16. ごみの収集・リサイクル」や「29. 上下水道の整備」では女性の満足度が男性より低く、「1. 子育ての環境や支援」や「2. 健康づくりや病気の予防」では男性の満足度が女性より低くなっており、それぞれ男女の差がみられます。



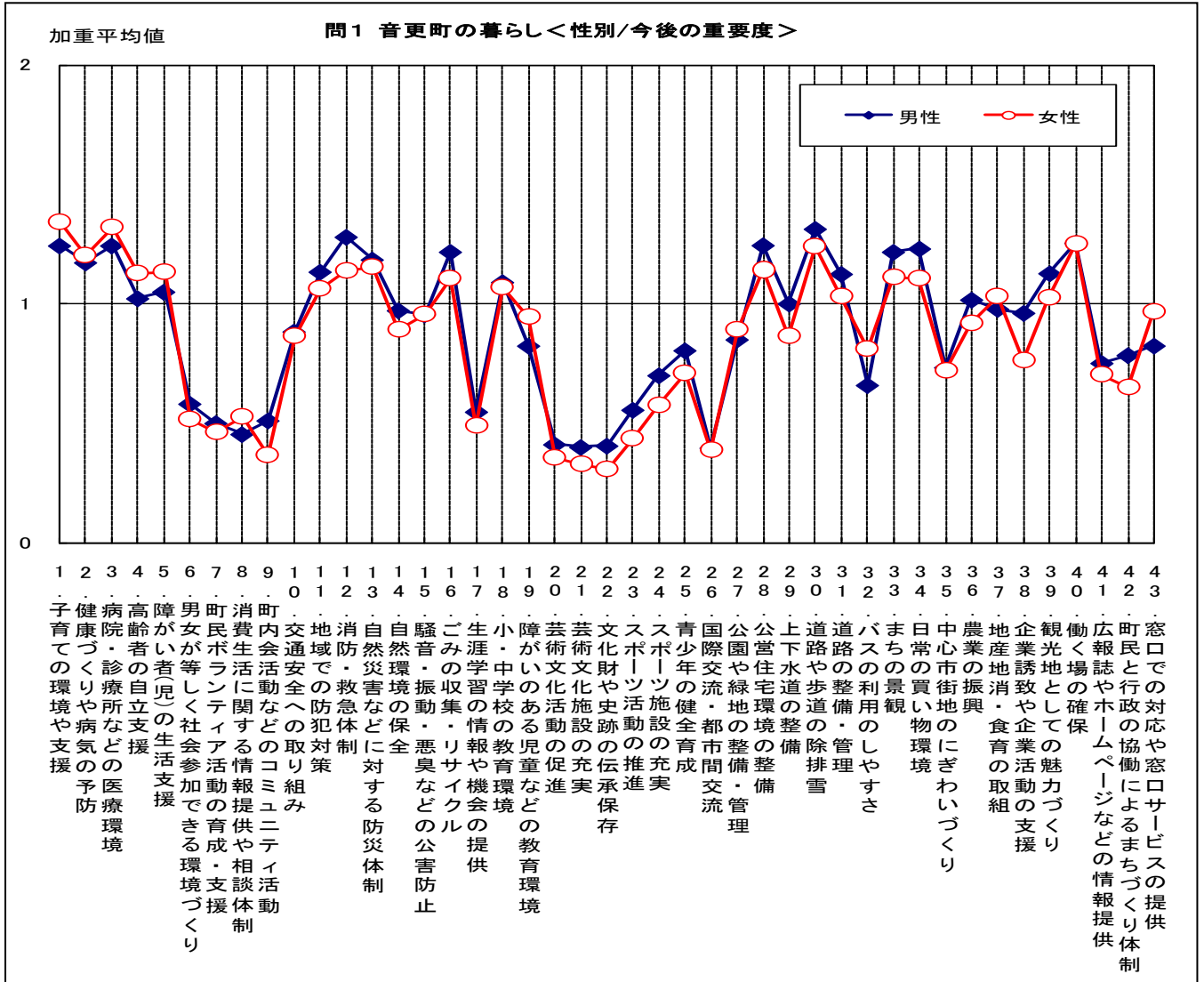
<①満足度について/年齢別>

年齢別にみると、60代、70歳以上といった高い年代の満足度が、全体的に高くなっています。一方、「36. 農業の振興」や「37. 地産地消・食育の取組」などは若い年代の満足度が高くなっています。



<②重要度について/性別>

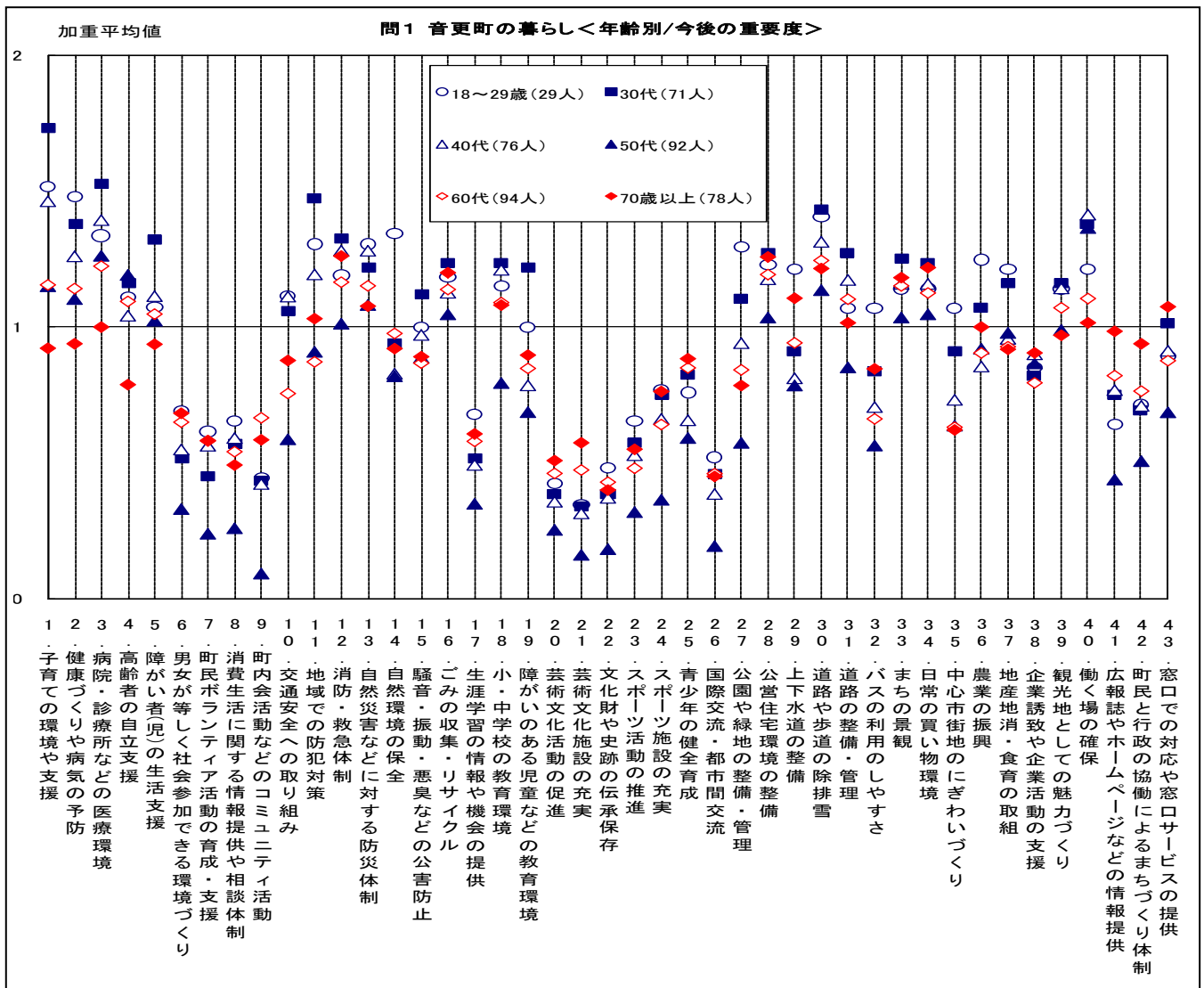
性別にみると、それほど大きな差はありませんが「1. 子育ての環境や支援」「4. 高齢者の自立支援」「32. バスの利用のしやすさ」では女性の重要度が男性より高く、「12. 消防・救急体制」「33. まちの景観」では男性の重要度が女性より高くなっています。



<②重要度について/年齢別>

年齢別にみると、30代など若い年代の重要度が、比較的高くなっています。「1. 子育ての環境や支援」や「3. 病院・診療所などの医療環境」などは若い年代の重要度が特に高くなっています。

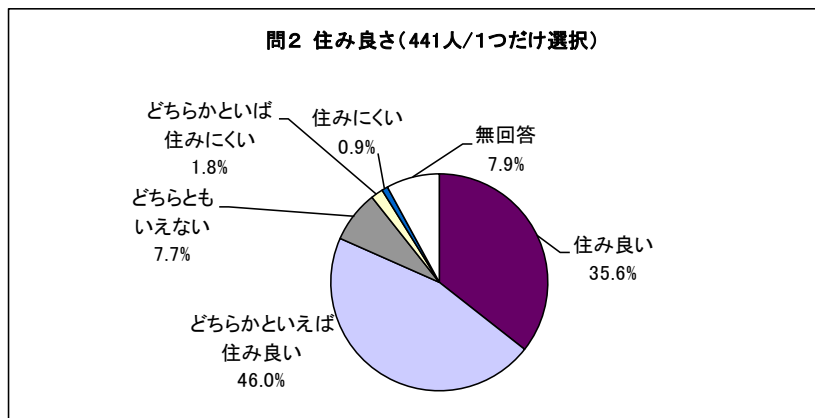
また、「25. 青少年の健全育成」や「43. 窓口での対応や窓口サービスの提供」では70歳以上、「14. 自然環境の保全」や「27. 公園や緑地の整備・管理」では18～19歳の数値が、他に比べて高く、差がみられます。



【問2】音更町の住み良さ

【問2】総合的にみて、現在の音更町の住み良さはいかがですか。次の中から1つだけ選んで、番号に○印をつけてください。

「どちらかといえば住み良い」が46.0%と約半数を占め、「住み良い」(35.6%)、「どちらともいえない」(7.7%)が続きます。「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の合計は81.6%で、程度の差はあれ、8割以上は住み良さを評価しています。



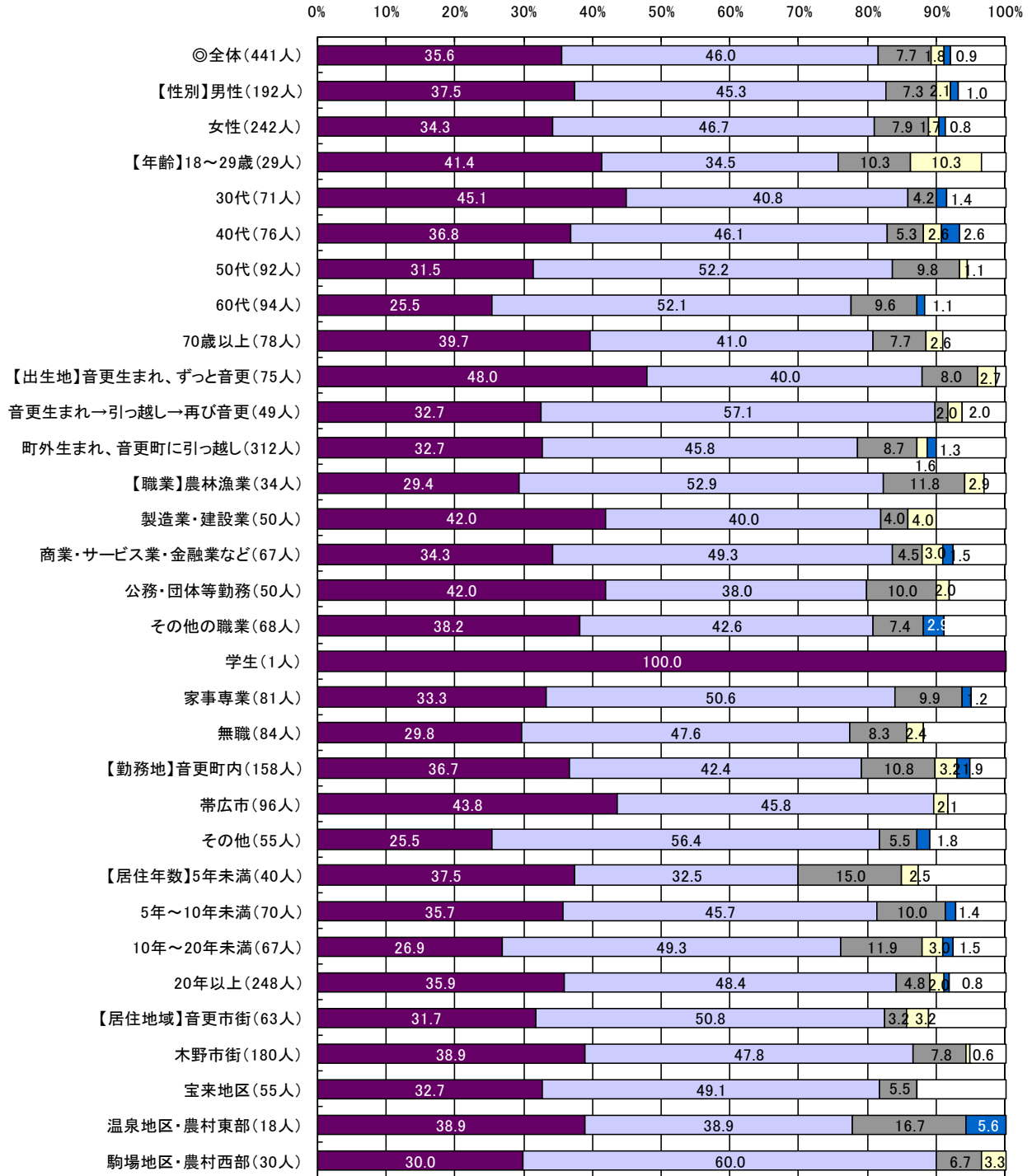
性別にみると、「住み良い」は男性、「どちらかといえば住み良い」は女性の回答率がそれぞれ高くなっています。

年齢別にみると、「住み良い」は30代、「どちらかといえば住み良い」は50代の回答率がそれぞれ最も高く、「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の合計が最も高いのは30代(85.9%)で、50代(83.7%)が続きます。

居住年数別にみると、「住み良い」は、5年未満の回答率が最も高くなっていますが、「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の合計は20年以上が最も高くなっています。

居住地区別にみると、「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の合計が高いのは駒場地区・農村西部(90.0%)や木野市街(86.7%)です。

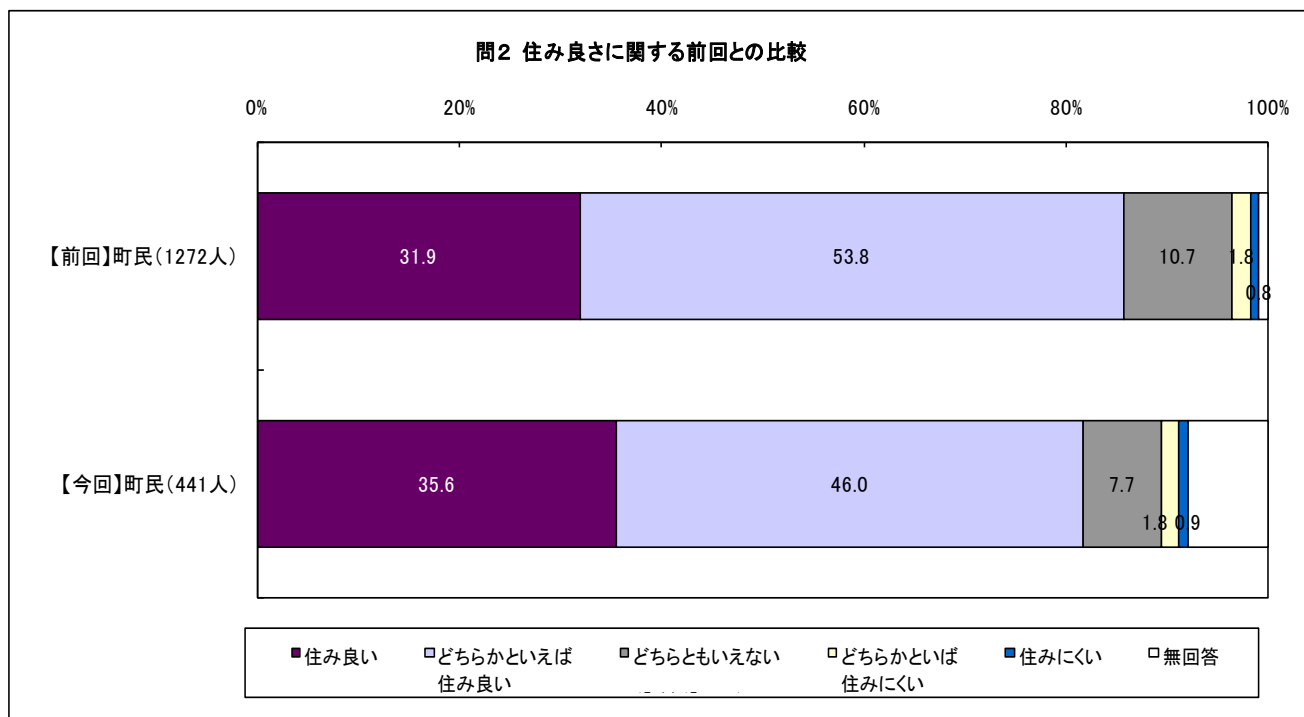
問2 住み良さ(属性別/1つだけ選択)



■住み良い □どちらかといえば住み良い ■どちらともいえない □どちらかといえば住みにくい ■住みにくい □無回答

前回のアンケートとの比較

平成 20 年に実施したアンケート結果と比較すると、「住み良い」の割合が増え、「どちらかといえば住み良い」の割合が低くなっています。一方、今回の調査では無回答の割合が大きく増えています。

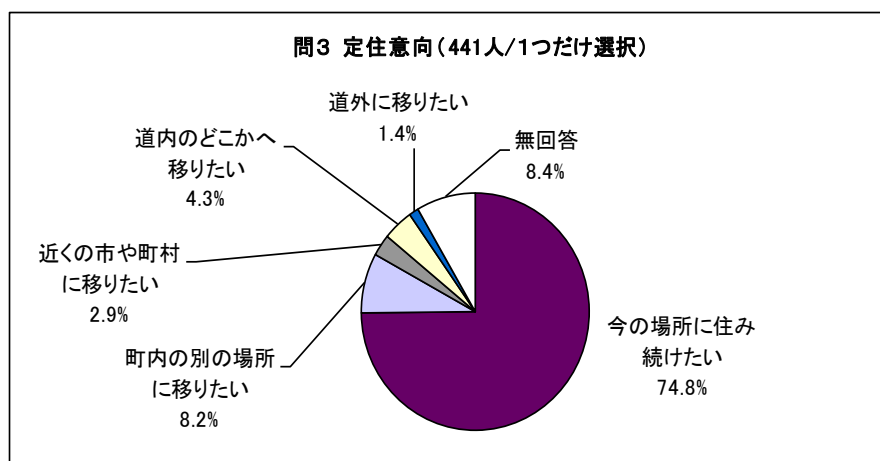


【問3】音更町への定住意向

【問3】 これからも、音更町に住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○印をつけてください。

「今の場所に住み続けたい」が74.8%と最も高く、「町内の別の場所に移りたい」(8.2%)、「道内のどこかへ移りたい」(4.3%)が続きます。

「今の場所」と「町内の別の場所」の合計は83.0%で、8割以上は今後も町内に住む意向を持っています。



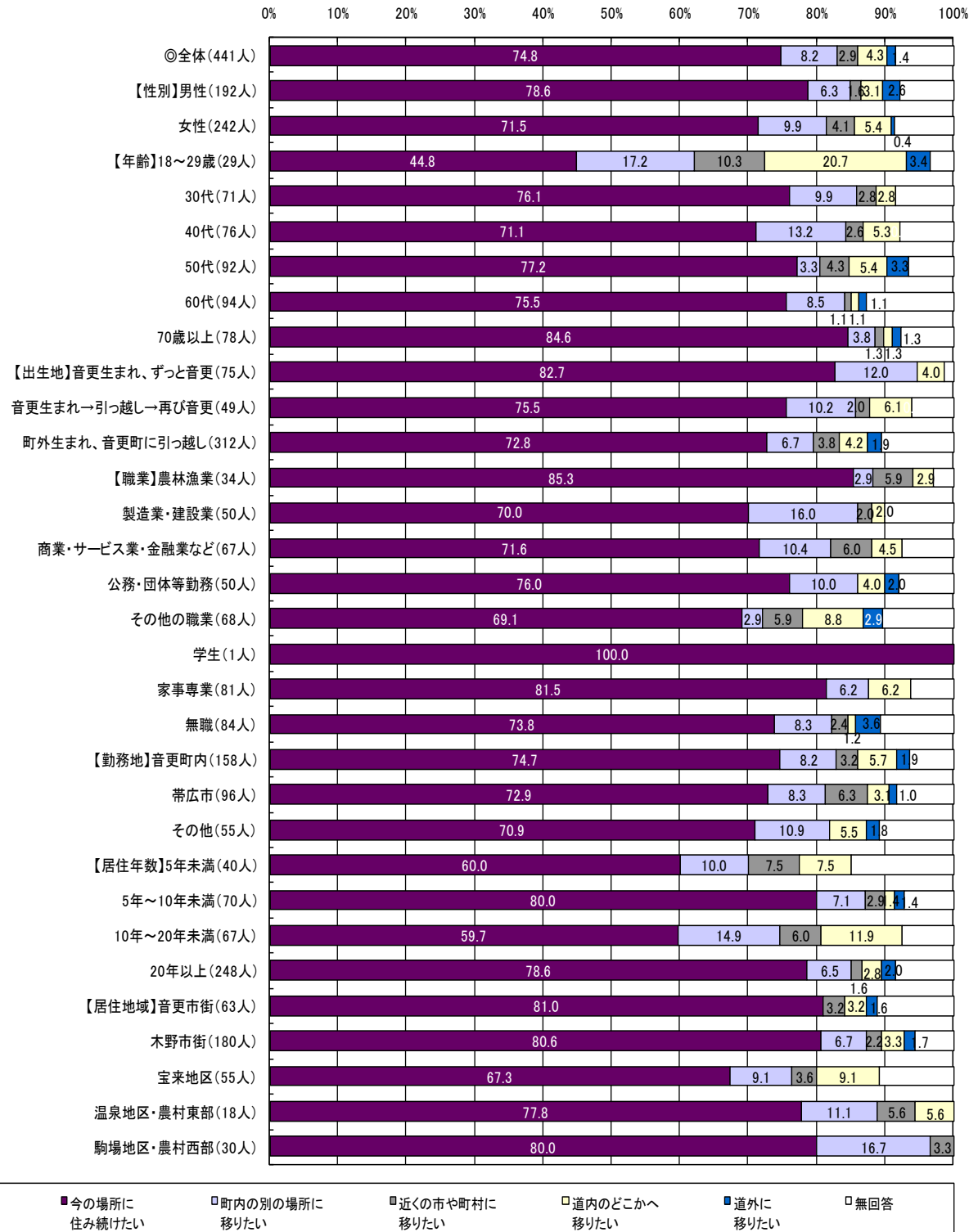
性別にみると、「今の場所に住み続けたい」は男性の回答率が高くなっています。

年齢別にみると、「今の場所に住み続けたい」は、70歳以上が最も高く、年齢が高まるにつれて定住の希望が高まっていることがわかります。一方、18～29歳では他の年代に比べて「町内の別の場所に移りたい」「近くの市や町村に移りたい」「道内のどこかへ移りたい」のいずれの項目についても、高くなっています。

居住年数別にみると、「今の場所に住み続けたい」は、5年～10年未満の回答率が高くなっています。

居住地区別にみると、「今の場所に住み続けたい」は、音更市街、木野市街、駒場地区・農村西部地区が8割を超えています。

問3 定住意向(属性別/1つだけ選択)



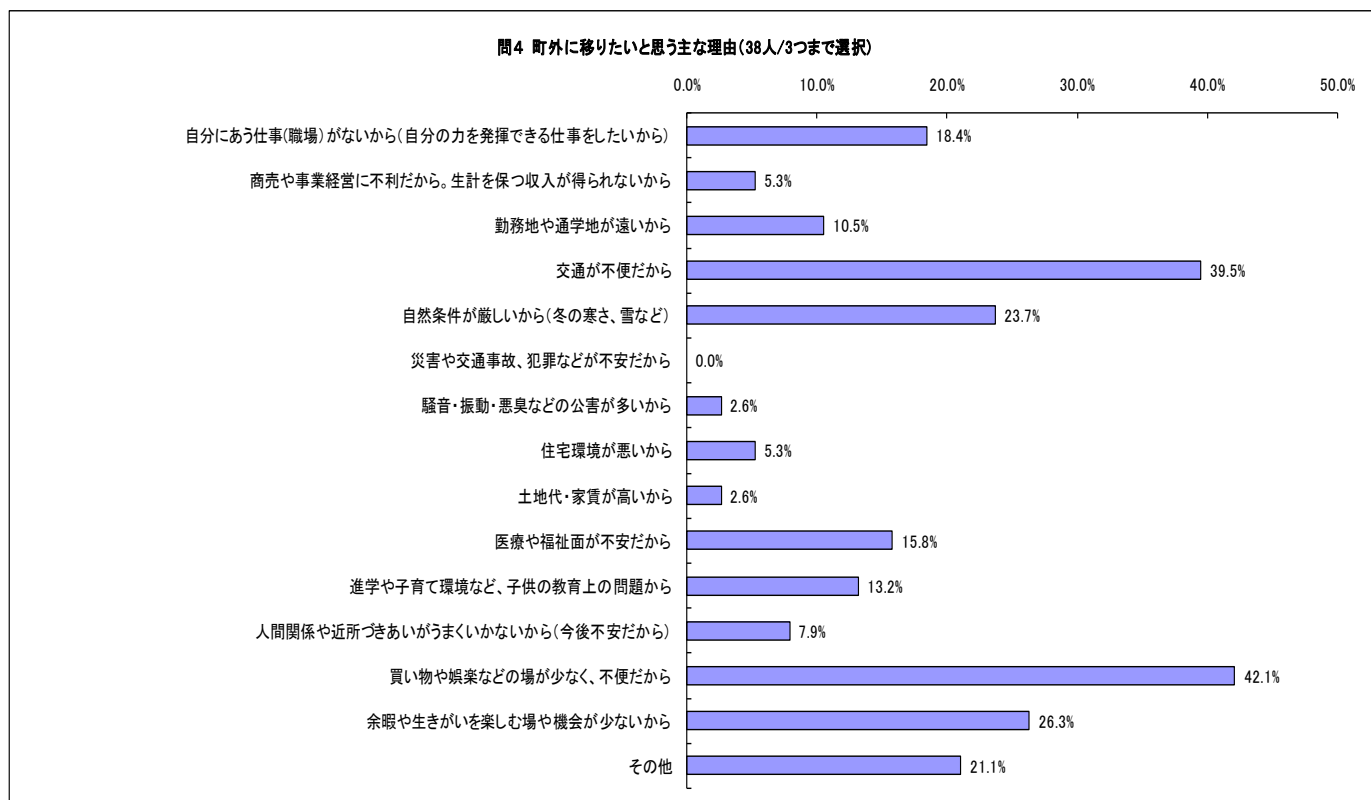
<「例えば」の記述内容>

近くの市や町村： 帯広市(7)、芽室町、池田町、幕別町
 道内： 札幌市(11)、函館市、旭川市、函館本線沿い、子が住んでいる市町村
 道外： 東京(4)、中国地方、熊本

【問4】 町外に移りたいと思う主な理由

【問4】 前問（問3）で、3～5に○印をつけられた方におたずねします。町外に移りたいと思う主な理由はどのようなことですか。次の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」(42.1%)が最も高く、「交通が不便だから」(39.5%)、「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」(26.3%)が続きます。



性別にみると、男女ともに「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」が第1位にあげられ、女性は加えて「交通が不便だから」が同率となっています。

年齢別にみると、18～29歳は「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」、30代は「交通が不便だから」、40代は「その他」、50代は「自分にあう仕事(職場)がないから」「商売や事業経営に不利だから」「その他」を同率で、70歳以上は「自然条件が厳しいから」を1位にあげており、年代ごとに差がみられます。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
性別	男性 (14人)	買い物や娯楽などの場が少なく、不便	交通が不便 その他		自分にあう仕事(職場)がない 自然条件が厳しい 余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ない		
		42.9	35.7		28.6		
	女性 (24人)	交通が不便 買い物や娯楽などの場が少なく、不便		余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ない	自然条件が厳しい	医療や福祉面が不安 子供の教育上	
		41.7		25.0	20.8	16.7	
年齢	18～29歳 (10人)	買い物や娯楽などの場が少なく、不便	交通が不便	余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ない	自分にあう仕事(職場)がない 勤務地や通学地が遠い 子供の教育上		
		80.0	40.0	30.0	20.0		
	30代 (4人)	交通が不便	余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ない	自分にあう仕事(職場)がない 勤務地や通学地が遠い 自然条件が厳しい 医療や福祉面が不安 子供の教育上 買い物や娯楽などの場が少なく、不便			
		75.0	50.0	25.0			
	40代 (6人)	その他	自分にあう仕事(職場)がない 交通が不便 自然条件が厳しい 子供の教育上 買い物や娯楽などの場が少なく、不便 余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ない				
			50.0	33.3			
	50代 (12人)	自分にあう仕事(職場)がない 商売や事業経営に不利 その他				子供の教育上	自然条件が厳しい (他4項目)
33.3				25.0	16.7		
60代 (3人)	交通が不便 その他 無回答						
	33.3						
70歳以上 (3人)	自然条件が厳しい	交通が不便 医療や福祉面が不安 人間関係や近所づきあいがうまくいかない 買い物や娯楽などの場が少なく、不便 余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ない					
		66.7	33.3				

<「その他」の記述内容>

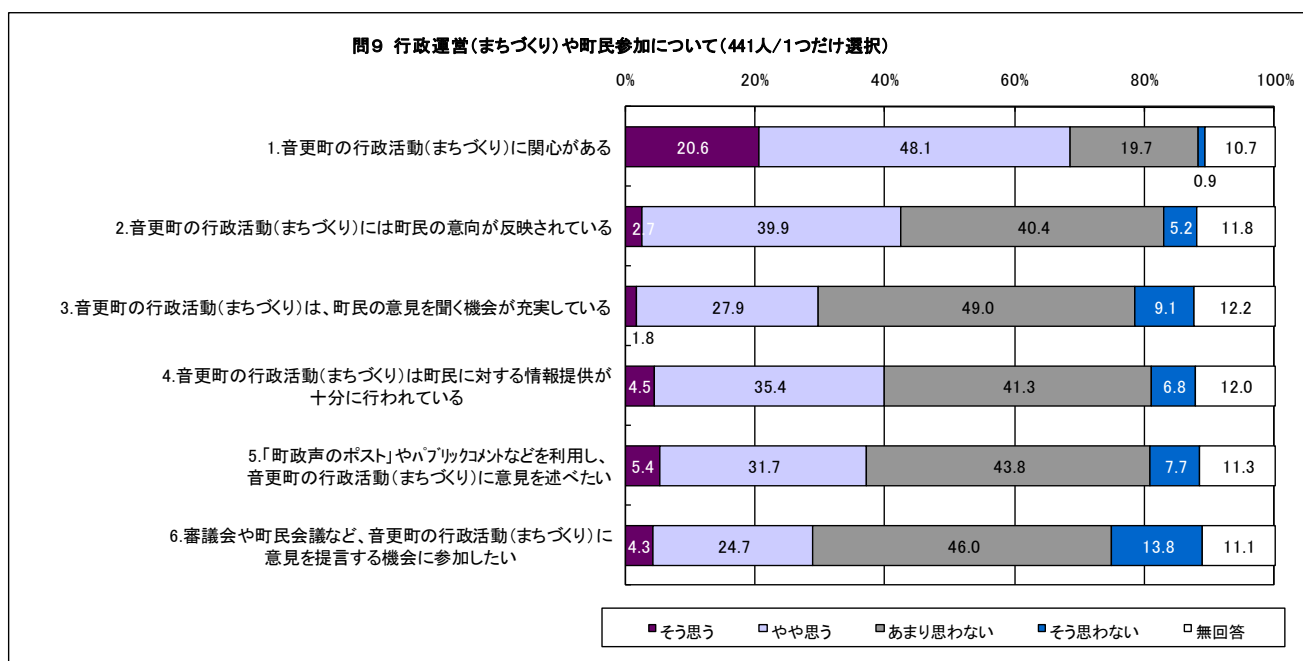
地元ではないので(2)/自然の多いところ/新しい土地、人とのめぐり合いが楽しみ/マナーが悪い/町が住民の話を聞かない、中心部ばかり整備する

【問5】行政運営（まちづくり）や町民参加について

【問5】行政運営（まちづくり）や町民参加に関する次の項目について、それぞれどのように考えですか。下の各選択肢（A～D）から、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで、○印をつけてください。

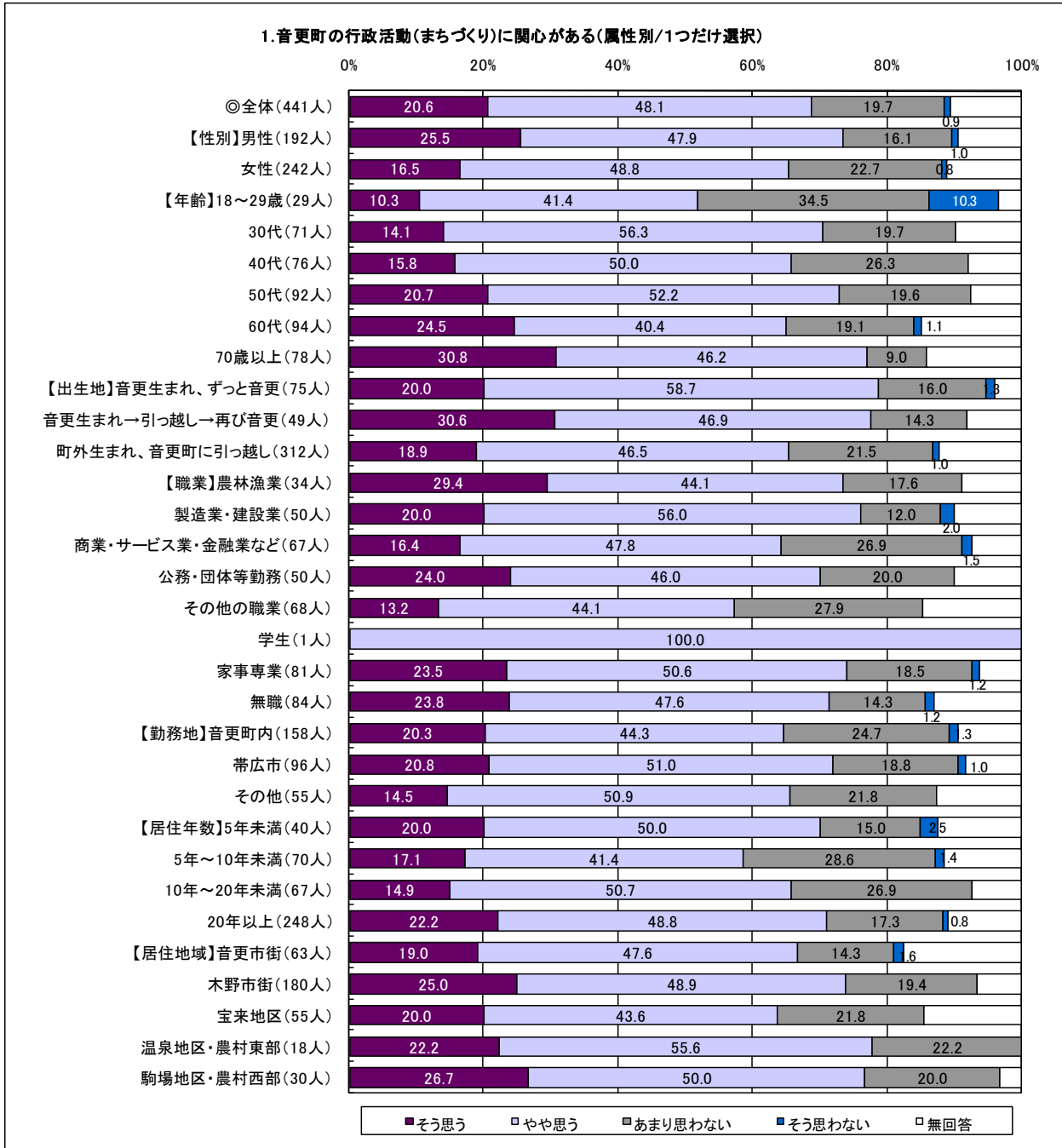
5つの項目のうち、「そう思う」が最も高かったのは「1. 音更町の行政活動（まちづくり）に関心がある」です。一方「そう思う」が最も低かったのは「3. 音更町の行政活動（まちづくり）は、町民の意見を聞く機会が充実している」です。

「そう思わない」が最も高かったのは「6. 審議会や町民会議など、音更町の行政活動（まちづくり）に意見を提言する機会に参加したい」です。



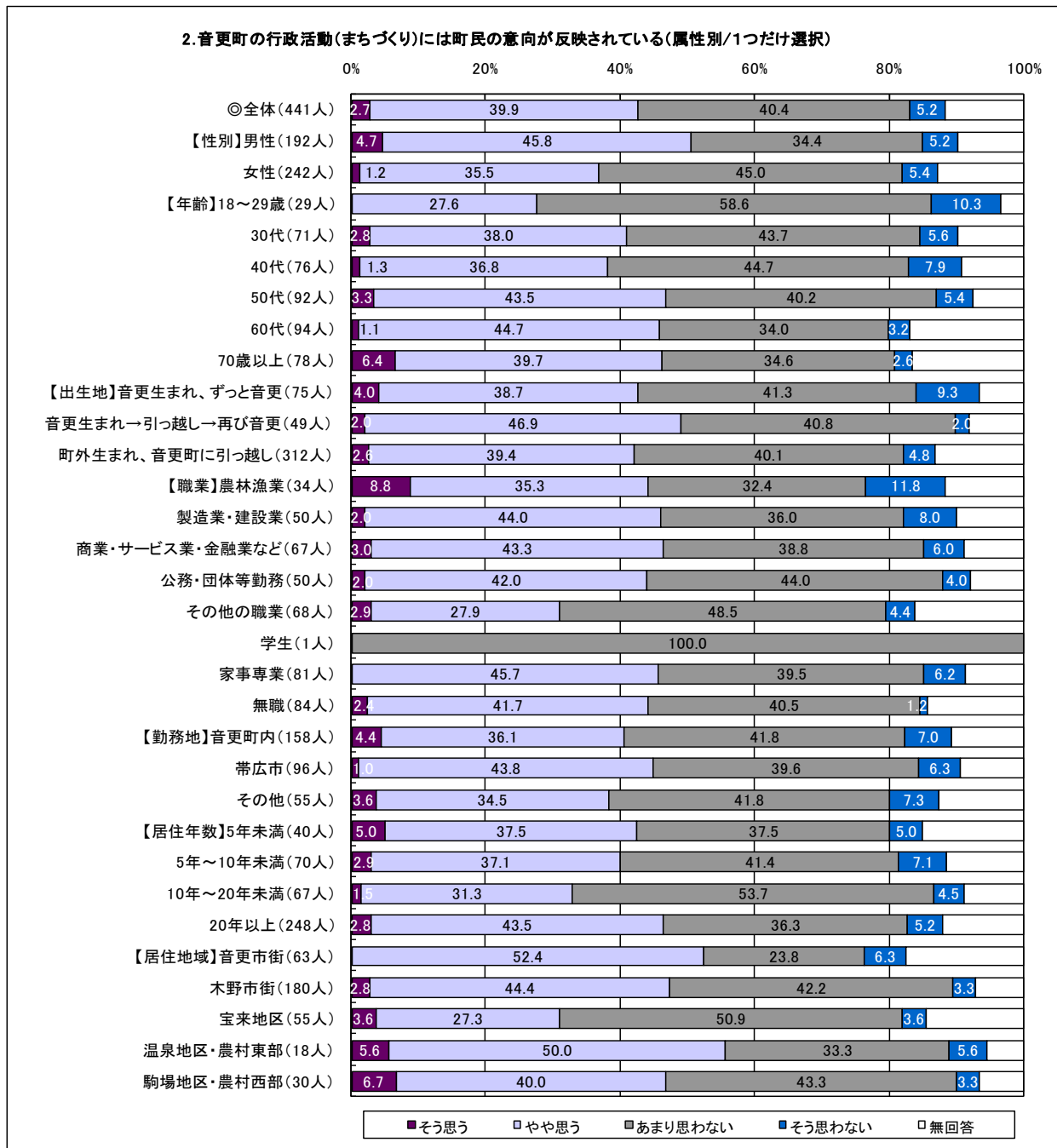
1. 音更町の行政活動（まちづくり）に関心がある

性別にみると、「そう思う」は男性の方が高くなっています。
 年齢別にみると、年齢が高まるにつれて「そう思う」が高まる傾向にあります。



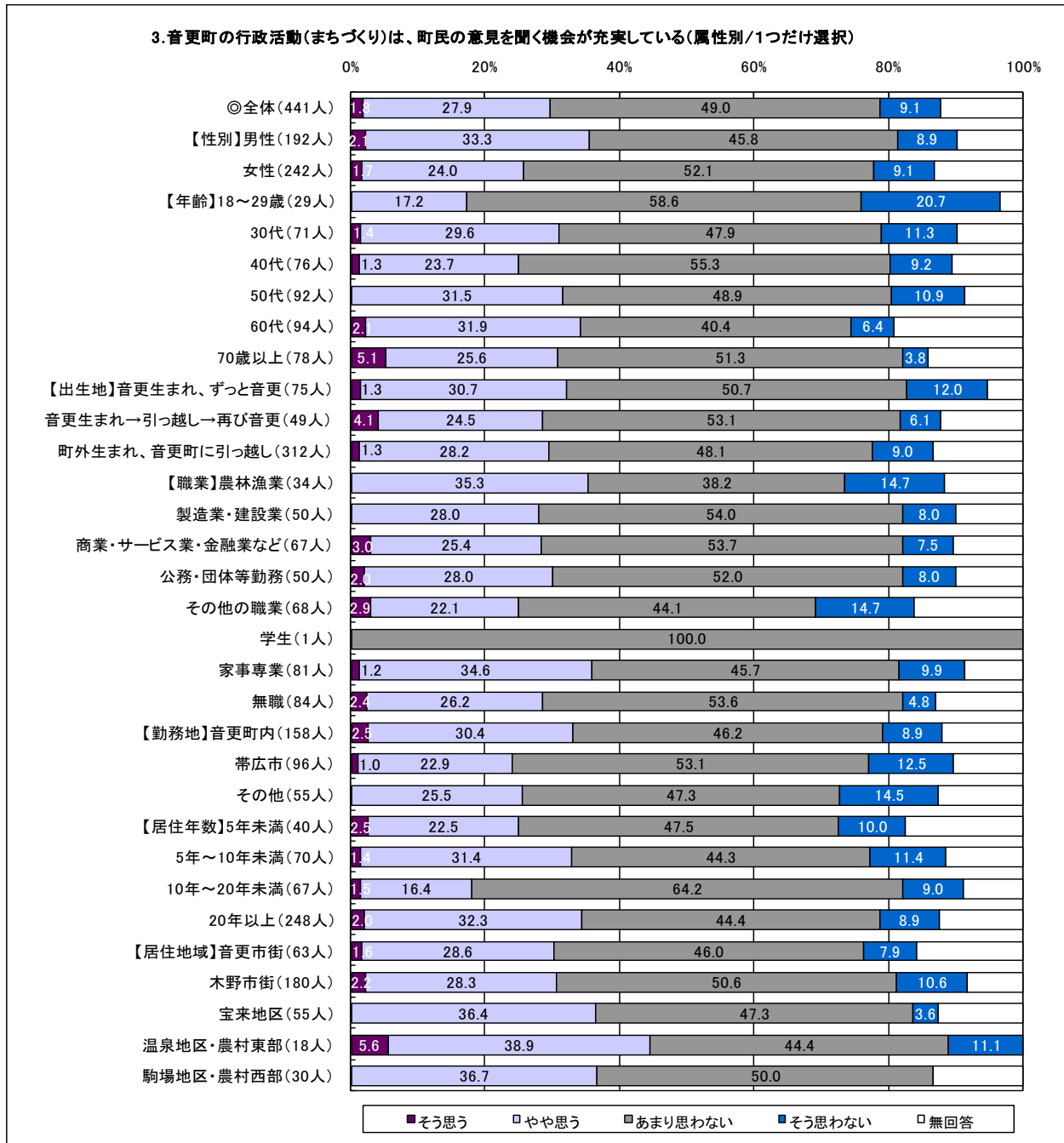
2. 音更町の行政活動（まちづくり）には町民の意向が反映されている

全体では、「そう思う」「やや思う」の合計割合は4割程度にとどまっています。
性別にみると、「そう思う」「やや思う」ともに男性の方が高くなっています。
年齢別にみると、50代以上では、肯定的な回答が高まる傾向にあります。



3. 音更町の行政活動（まちづくり）は、町民の意見を聞く機会が充実している

全体では、「そう思う」「やや思う」の合計割合は3割程度です。
性別にみると、「そう思う」「やや思う」ともに男性の方が高くなっています。

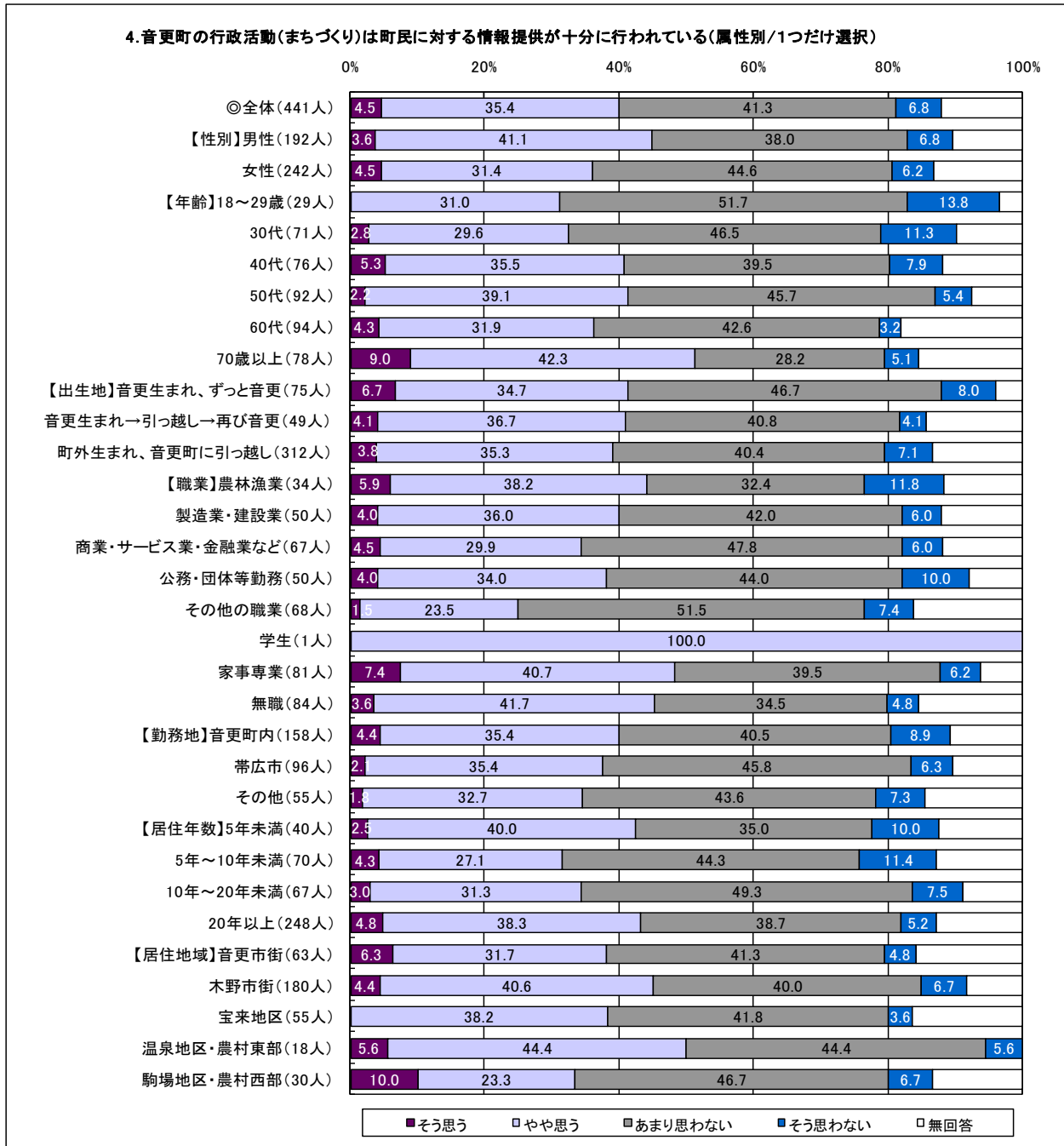


4. 音更町の行政活動（まちづくり）は町民に対する情報提供が十分に行われている

全体では、「そう思う」「やや思う」の合計割合は4割程度です。

性別にみると、「やや思う」は男性の方がやや高くなっています。

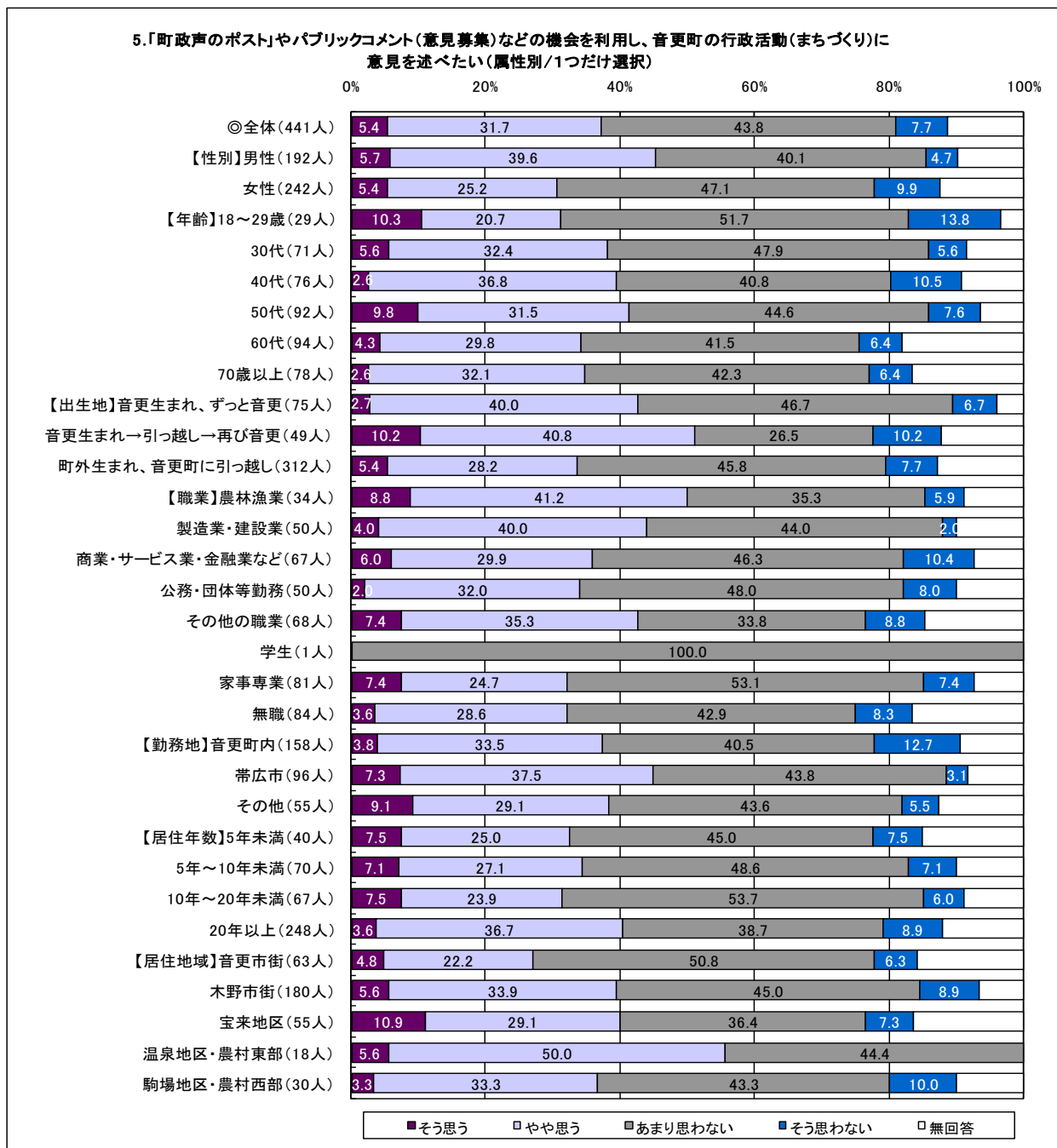
年齢別にみると、70代以上では、半数以上が肯定的ですが、年齢が低くなるにつれて割合は低くなる傾向が見られます。



5. 「町政声のポスト」やパブリックコメントなどを利用し、音更町の行政活動（まちづくり）に意見を述べたい

性別にみると、「そう思う」「やや思う」ともに男性の方が高くなっています。特に「やや思う」で男女の差がみられます。

年齢別にみると、50代までは肯定的な回答が高まる傾向にあります。

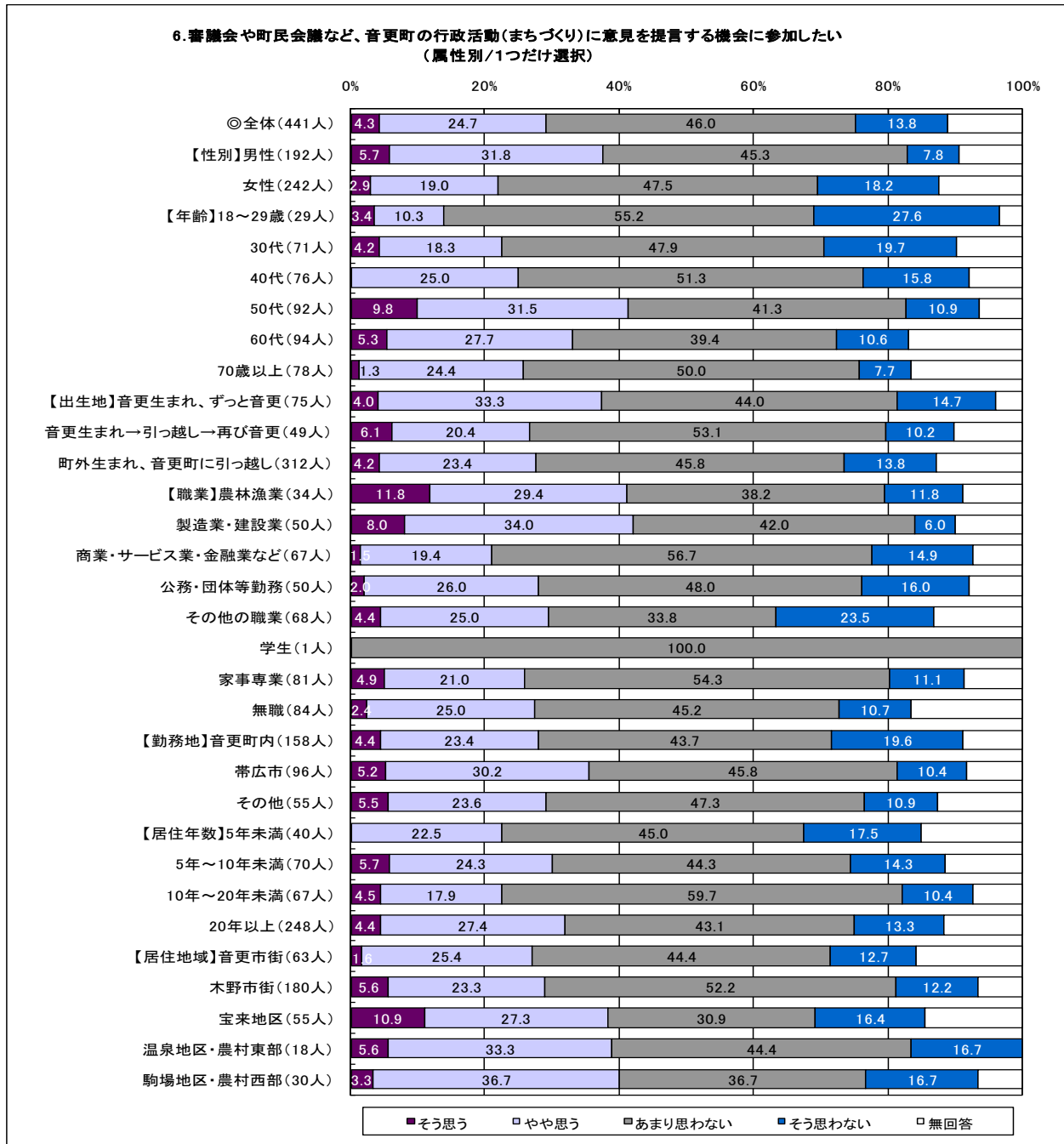


6. 審議会や町民会議など、音更町の行政活動（まちづくり）に意見を提言する機会に参加したい

性別にみると、「そう思う」「やや思う」ともに男性の方が高くなっています。特に「やや思う」で男女の差がみられます。

年齢別にみると、特に50代で肯定的な回答が高いです。

職業別にみると、農林漁業、製造業・建設業で肯定的な回答が他に比べて高いことがわかります。



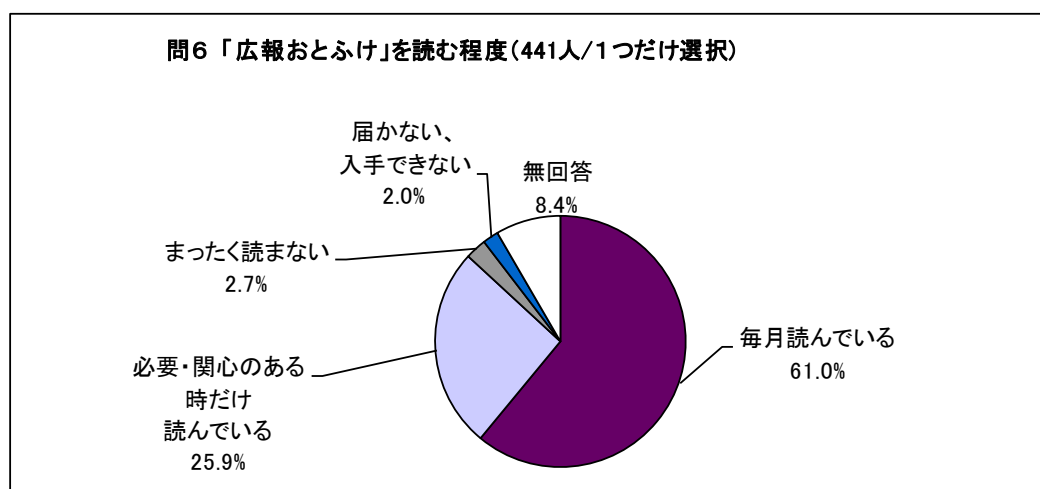
【問6】「広報おとふけ」と町のホームページを読む程度

【問6】音更町では、毎月1回発行の「広報おとふけ」と町のホームページで、町に関する情報をお伝えしています。あなたは、それぞれ、どのくらいご覧になりますか。次の中からそれぞれ1つずつ選んで、番号に○印をつけてください。

「広報おとふけ」について

「毎月読んでいる」が61.0%と最も高く、「必要・関心のある時だけ読んでいる」(25.9%)が続きます。

「届かない、入手できない」という回答も2.0%を占め、「無回答」も8.4%と他の設問に比べて高めです。

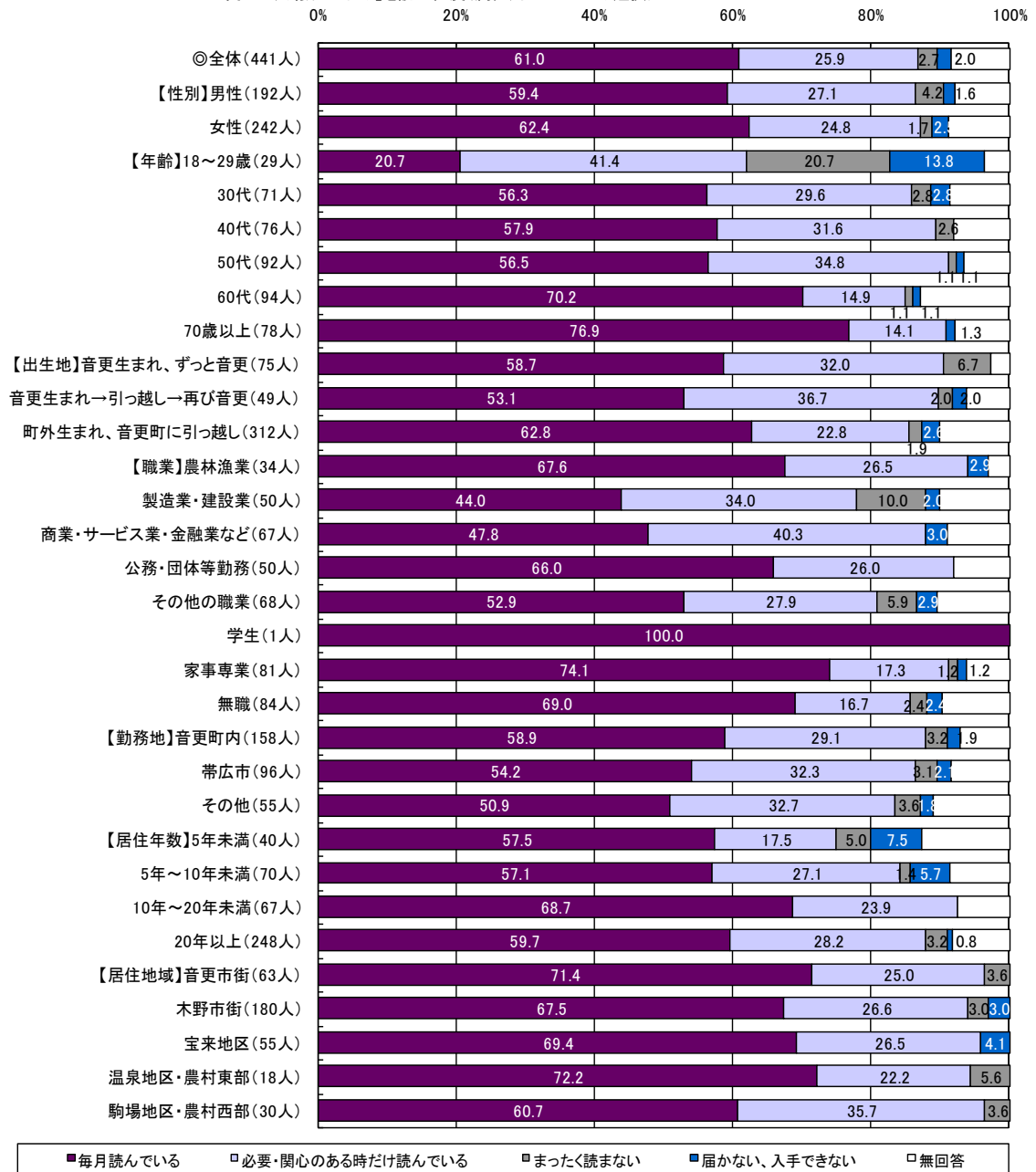


性別にみると、回答傾向に大きな差はみられません。

年齢別にみると、年齢が高まるにつれて「毎月読んでいる」の回答率が高まっています。18～29歳では「毎月読んでいる」という回答が他年代に比べて著しく低くなっています。

居住年数でみると、5年未満や5年～10年未満では、「届かない、入手できない」という回答も他に比べて高くなっています。

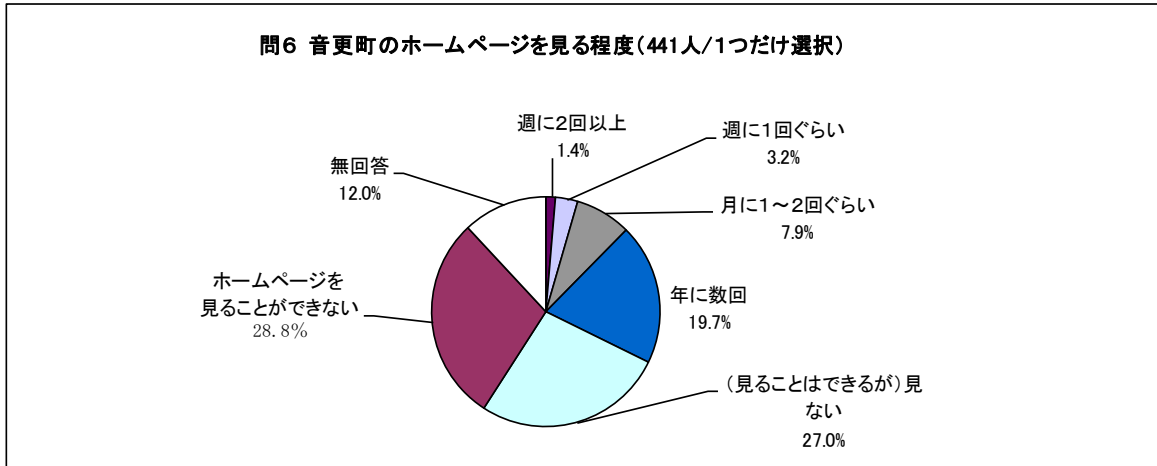
問6 「広報おとふけ」を読む程度(属性別/ひとつだけ選択)



町のホームページについて

「ホームページを見ることができない」が 28.8%と最も多く、「(見ることはできるが) 見ない」(27.0%) が続きます。

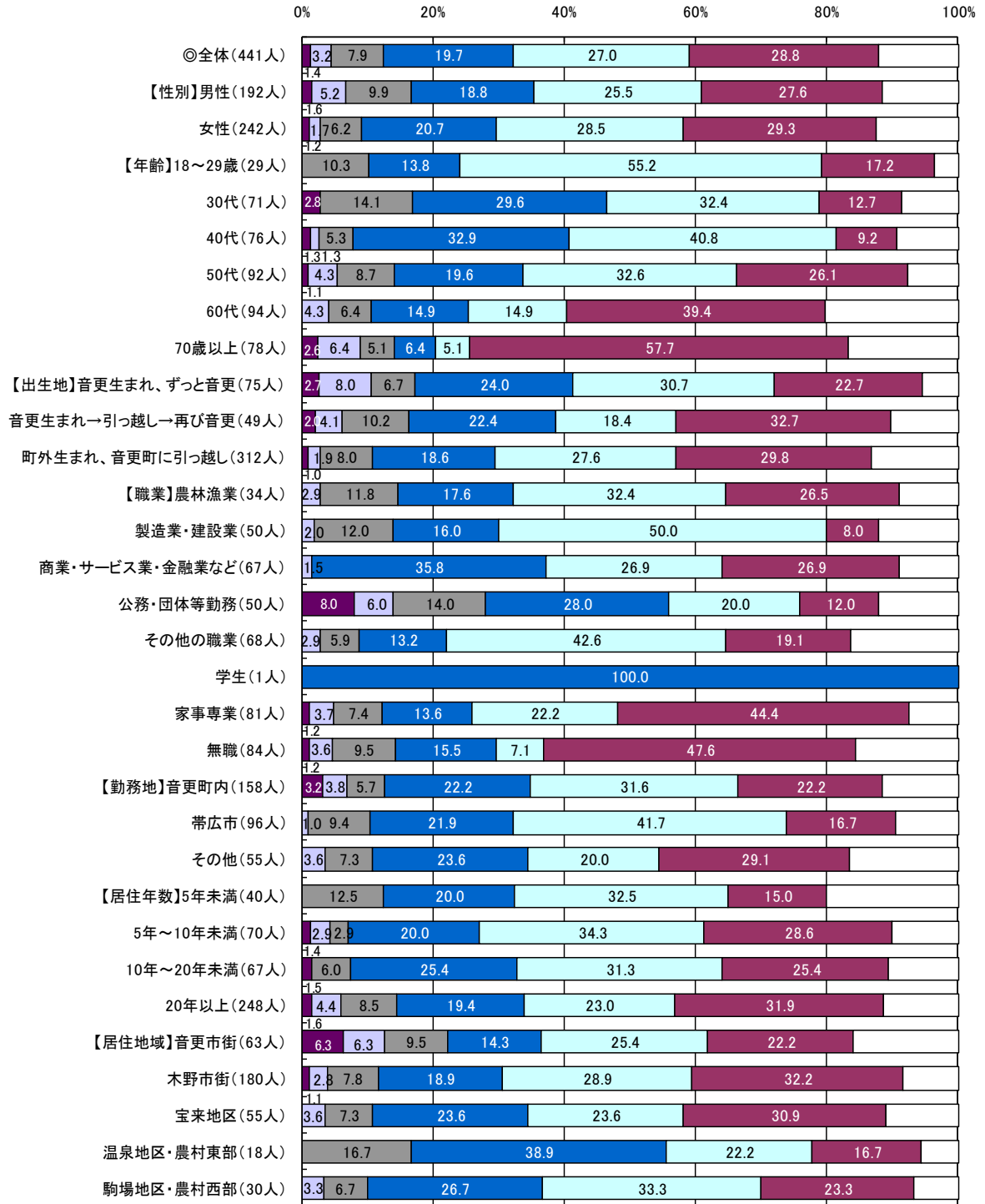
実際に見ている回答の中では、「年に数回」(19.7%) が最多です。



性別にみると、回数に関わらず男性の方が見るという回答率がいずれも高くなっています。

年齢別にみると、“見る”という回答の合計（「週に2回以上」「週に1回」「月に1～2回」「年に数回」の合計）は、30年代が最も高くなっています。一方、年齢が高くなるにつれて「見る
ことができない」が割合が上昇します。

問6 音更町のホームページを見る程度(属性別/1つだけ選択)



週に2回以上
 週に1回ぐらい
 月に1~2回ぐらい
 年に数回
 (見ることはできるが見ない)
 ホームページを見ることができない
 無回答